
地域保健看護

報告者：糸数 仁美

教育及び実践の課題

新たな地域保健看護実習の組み立てとして、地域にある住民組織を活用した実習方法を検討する際に、Scott,S (2011) の論文が活かさないかと検討を行った。ニュージーランドの場合、実習依頼については、コミュニティトラストという第3者が、実習受け入れを希望する場（施設）と実習依頼を希望する教育機関等を把握し、その両者の仲介を行っていることより、日本とは制度が異なっていた。しかし教育機関が、実習受け入れを希望する場が課題としていることを実習内容として取り組み、教育機関の教育目標を踏まえた内容にすることで、実習依頼の可能性があることが示唆されている。また、プライマリーヘルスケアの実践に必要とされるパートナーシップを構築する能力の基礎技術を学ぶ実習方法として、看護学生と高校生が1つのテーマの下、活動を共に取り組むことが有効であること、看護学生は高校生の健康増進と健康教育への関わりを楽しんでいたことが報告されている。

現在演習や実習で行っている健康教育の方法として、把握した住民のニーズに対して講義や実践を取り入れた知識の伝達があるが、この方法に加えて、住民と共に調べ、ディスカッションし、まとめて発表するという方法も、学生の看護実践能力を高める実習方法として有用であることが示唆された。さらに、活動を共に行う対象が高校生であることから、学校における地域保健看護実習としての展開の可能性が検討された。

活用した論文の概要

Scott,S (2011) の論文には、ニュージーランドにおいて、看護学生が地元の高年生とともに、ヘルスプロモーション技術を向上させるために、看護教育者がコミュニティと活動を行った「サービスに基づく学習パートナーシップ」について記述されている。コミュニティトラストと大学の看護プログラム、地元の高校との間の三者間のプロジェクトとしての取り組みである。「健康」のカリキュラムにおいて、対話型の教室を開発するために学校教師と青年、学校の上級生と一緒に活動し、下級生へ行うワークショップの計画を立て実施した。さらにワークショップで使う食物サンプルや視覚教材は、地元地域の企業・保健センターから借用し取り組まれた。この取り組みの三者の関係は、プロジェクトの基礎となる健康と教育、そして社会開発部門を超えて協働するための機会の提供となった。

この学校において看護学生は、青年とともに活動することで、今後協力して働くために必要なコミュニケーション技術と協働技術を身につけることができた。また、特にニュージーランドにおいて、自己決定を促進するために必要な技術を身につけることができた。

教育及び実践への活用

住民組織の活動を活かした実習方法について、那覇市での実習で活かしている。具体的には、住民組織の活動についてインタビューや活動の場面への見学を通して学ぶ場面の設定を作っている。住民と共に何かに取り組み協働して学ぶ場面の設定などは、今後取り組んで行きたい。

参考文献*

Scott, S. (2011): A Tripartite learning partnership in health promotion. *Nursing Praxis in New Zealand*, 27(2), 16-23.
